

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社オリエンタルランド（証券コード：4661）

【据置】

長期発行体格付	AA
格付の見通し	安定的
債券格付	AA

■格付事由

- 千葉県浦安市舞浜地区で東京ディズニーリゾート（TDR）を運営する。主力のテーマパーク事業では、キャラクターの高い知名度と豊富な運営ノウハウに加え、アトラクションやイベントの効果的な投入により高い集客力を有する。20年には東京ディズニーランドにおいて大規模開発エリアをオープンした。東京ディズニーシー（TDS）では大規模拡張プロジェクトを進めており、23年度開業予定である。
- コロナ禍による入園者数の制限により業績は厳しい状況にあるものの、TDRのパークとしての魅力、集客力の強さは損なわれてはいないと考えられる。また、チケット変動価格制を導入し、高価格帯のチケット販売が好調だったことやコスト削減などにより収益体質は強化されている。外部環境は依然として不安定な状況が続いているが、財務構成は良好な水準を維持しており、大規模拡張プロジェクトの投資を考慮しても、当面の業績回復動向を見守る余裕はある。以上を踏まえ、格付を据え置き、見通しを安定的とした。
- 22/3期の営業損失は242億円（前期は459億円の赤字）の計画である。入園者数の制限緩和に伴い業績は改善する見通し。変動価格制導入により入園者一人当たりのチケット収入が増加している。また、入園者数の平準化や混雑緩和による満足度向上も図れると考えられる。加えて、予約制継続により入園者数が確定されることでコストコントロールも以前より容易になりつつある。様々な施策によりコロナ以前より少ない入園者数でも利益をあげられる収益体質を構築しつつある。しかし、内部努力による成果は生じているものの、新型コロナウイルス変異株の感染拡大により先行き不透明感は依然として強い。引き続き外部環境の動向を注視する必要がある。
- 22/3期第2四半期末の自己資本比率は70.8%と財務構成は依然として良好な水準にある。TDS大規模拡張プロジェクト開業前までは高水準の設備投資が続き、ネット有利子負債は増加する見通しである。しかし、手元流動性や自己資本は依然として厚く、今後の財務諸比率の悪化は限定的なものに止まるとみている。

（担当）井上 肇・三浦 麻理子

■格付対象

発行体：株式会社オリエンタルランド

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第12回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	300億円	2015年3月20日	2022年3月18日	0.373%	AA
第13回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	300億円	2019年1月25日	2024年1月25日	0.120%	AA
第14回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2019年1月25日	2026年1月23日	0.230%	AA
第15回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2019年1月25日	2029年1月25日	0.305%	AA
第16回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	400億円	2020年9月17日	2025年9月17日	0.150%	AA

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第17回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	300億円	2020年9月17日	2027年9月17日	0.200%	AA
第18回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	300億円	2020年9月17日	2030年9月17日	0.290%	AA
第19回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	300億円	2021年9月2日	2024年9月2日	0.001%	AA
第20回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	200億円	2021年9月2日	2026年9月2日	0.090%	AA

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2022年1月7日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信
主任格付アナリスト：井上 肇
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） 株式会社オリエンタルランド
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル